

法政大学 GIS(グローバル教養学部)とは

- ◇ 学部長挨拶
- ◇ 法政大学GISとは(世間のイメージは正しい?)
- ◇ GIS Mission 2024
- ◇ 卒業後の進路
- ◇ 卒業後の主な進路先
- ◇ GIS Global Leadership Initiative (GGLI/産学連携組織)
- ◇ Graduate School Admission Support (GSAS/海外大学院進学サポート)
- ◇ 入学試験
- ◇ 自己推薦入学試験(総合型選抜)
- ◇ (参考)入学時の英語力の違いによる英語力の伸び(基準別)
- ◇ (参考)学生の履修科目イメージ



法政大学
GIS(グローバル教養学部)
学部長 福岡賢昌

私たち法政大学グローバル教養学部(通称GIS)は2008年4月に設立されました。2024年は17年目になります。私たちは設立以降、グローバル基準を常に意識してきました。例えばGISの講義は100%英語で行われていますが、これは英語圏だけでなくアジアや欧州の高等教育が英語で行われていることに端を発しています。また、リベラルアーツ教育を提供している理由は、欧米の学士課程では、人格形成、幅広い知識教養と基礎的な専門分野の習得、また、実践的なスキルの習得に主眼が置かれているからです(GISではゼミ活動で専門分野を深めます)。

日本はかつて世界で大きな存在感があり輝きを放っていました。1979年には『ジャパン アズ ナンバーワン: アメリカへの教訓』が出版され、その10年後の1989年には三菱地所がロックフェラーセンターを買収したことはその証左でしょう。しかし、それから35年経ち、日本はかつての存在感と輝きを失ってしまいました。理由の一つは、日本の競争相手の変化があげられます。つまり、日本にとってグローバル競争と言えば欧米先進国との競争でしたが、現在は中国、インド、アフリカ諸国等が台頭したことにより、5大陸で競争せざるをえなくなったわけです。話を単純化すればグローバル市場においてプレイヤーが増えたことで、競争が激化し相対的に存在感が失われたと言えます。

プレイヤーが増えれば、当然、価値観も多様化するため、様々な場面における合意形成プロセスは複雑化し困難になります。地球規模で発生している諸問題を解決するプロセスもその一つです。いかに自国や企業等の利益を考えながら折り合いをつけることができるか、そして、最終的にいかにグローバル社会の発展に貢献することができるか。こうした課題を多角的な視点から捉え、解決できる能力を持った人材が今、求められています。

今後、社会は私たちが予想する以上に、国境を越えてヒト、モノ、カネ、情報が行き交い、労働市場もよりグローバル化されていくことでしょう。そして、近年話題のDXやAIがさらにそれを加速化させることは間違いありません。つまり、日本だけでしか通用しないものはますます淘汰されていくということです。例えば、学位の考え方もそうです。グローバル市場では修士や博士を持っているビジネスパーソンが多くなりました。もはや学士は最終学歴ではありません。これからの若者はこのように激変するグローバル社会を生きていくのです。

私たちがこれまで提供してきた「英語によるリベラルアーツ教育」は今の時代、その重要度が増しています。私たちに設立以来培ってきた17年間の経験とノウハウがあります。それらを活かしながら、これからも「国内外問わず、英語を活用し、グローバル基準の知識・教養、実践的スキルとマインドをもって、堂々と世界の人々と渡り合うことができる魅力あるリーダーとして、グローバル社会の発展に貢献できる人材」を育てていきたいと思っています。

法政GIS とは(世間のイメージは正しい?)

受験生や保護者様が抱く法政GISのイメージ

- 1) 全ての講義が英語で行われる
- 2) 高い英語力が必要
- 3) 帰国子女が多い
- 4) 留学生が多い
- 5) 少人数教育
- 6) MARCH

法政GIS とは(世間のイメージは正しい?)

Answer

1) 全ての講義が英語で行われる

→教授陣による講義だけでなく、講義内のディスカッションやプレゼンテーション、レポートや試験も英語で行われる**学部**です。

(参考)

* 日本の大学には全講義英語で行われる**学部**と**プログラム**があります。

- ①学部・・・学生は学部に所属し、全講義はその学部が責任を持って提供し、運用しています。法政GISはこのグループになります。首都圏には法政GISを含めて片手で数えられるほどしかありません。後述するMARCHでは法政GISのみ。
- ②プログラム・・・主に二種類あり一般に定員は少なめです。首都圏の多くがこのタイプ。
 - a. 既存学部内のコース(例、経営学部内に全講義英語で行われるコースを設置)
 - b. 既存の複数学部において英語で講義を行っているものを複数受講

全講義英語といっても、学部とプログラムでは、学生の所属意識、雰囲気、学生生活、サポート体制等が全く違いますので、受験や入学の際は十分にご検討ください。

Answer

2) 高い英語力が必要

→大学の講義に付いていくためには**高度な英語運用力**が必要ですが、入学時点においてGISが要求する力に達していない学生であっても、設立以来、17年間蓄積されたノウハウを基盤とした複数のアカデミックスキル科目を1年次に集中的に受講することで、早期に総合的な高い英語運用力を獲得することが可能です(p17の参考1、p18の参考2をご参照ください)。

3) 帰国子女が多い

→帰国子女＝英語堪能、長い海外生活というイメージを持っている方が多いかもしれませんが、帰国子女といっても、**いつ(幼・小・中・高)、どこに(国・地域)、どのくらい(期間)、海外で生活したかは、学生によって全く異なります**。また、海外で生活したことがない学生もいます。複数の文化を持つ学生もいます。このようにGISは様々な地域・国で教育を受けてきた学生が混ざり合う多様性のある学部です。

4) 留学生が多い

→学部には所属する留学生は多くありませんが、法政大学が提携する大学からの**交換留学生がGISの科目を受講することがよくあります**ので、他学部と比べて、留学生と肩を並べて講義を受ける機会が多いです。

Answer

5) 少人数教育

→1クラスの受講人数は20人～25人です。少人数で徹底的にグローバルに活躍するための学術的知識、マインドセット、スキルを身につけます。

6) MARCH

→MARCHには大学間交流もなく、実態が全くありません。また、先の学部長挨拶でも触れられていたとおり、グローバル市場ではビジネスパーソンであっても、修士や博士の者が多く、もはや学士は最終学歴ではありません。さらに、私たちが提供するグローバル基準の高質なカリキュラムと教育によりこれまで多くのGIS生が4年間で著しい成長を遂げて卒業(大学における成長感や満足度において14学部中1位*)し、社会で活躍しています。学士課程入学時の一般選抜の難易度(偏差値)を基盤としたMARCHという括りに対して、私たちは大きな違和感を感じており、高等教育の未来を憂慮しております。

なお、GIS生には人生のどこかのタイミングで修士以上を取り、それを最終学歴とすることを推奨しています(進路については、p9、p10を参照してください)。

*法政大学15学部中、法学部を除く14学部

私たちは、国内外問わず、世界人口約80億人の人々と堂々と英語で渡り合うことが出来るリーダー、グローバル社会の更なる発展に貢献することが出来る人間を育てます。

グローバル社会でリーダーとして活躍し、グローバル社会の発展に貢献できる人間を育てるためには、学生がこれまで受けてきた教育や個性を活かしつつ、「**高い英語力**」「**文化的知性**」「**幅広い知識教養**」「**高度な専門知識**」「**実践的スキル**」「**人間力**」を育む必要があると私たちは考えています。

高い英語力

文化的知性

幅広い知識教養

高度な専門知識

実践的スキル

人間力

- ・ 高い英語力・・・最低でもTOEFL100点、IELTS7.0～7.5程度の英語力
- ・ 幅広い知識教養・・・文学、歴史、哲学、心理学、言語学、国際関係学、経営学等に関する幅広い基礎的な知識教養
- ・ 文化的知性・・・複数の文化の中で自分と異なる文化を持つ人たちと一緒に仕事をする能力
- ・ 実践的スキル・・・問題発見・解決力、批判的・創造的思考力、（英語による）ディスカッション・プレゼンテーション能力、チームワーク、共感力
- ・ 高度な専門知識・・・基礎的な専門知識（学士課程）、高度な学術的専門知識（修士/博士課程）（グローバル社会では、修士か博士が最終学歴になりつつあります。その為、将来、修士や博士の取得を目指すGIS生が増えています。）
- ・ 人間力・・・熱意と責任感をもって文化を超えて様々な人たちと交流し、多様性あるチーム等を率いることができる人間的な魅力

< 私たちが求めるリーダーシップ経験 >

皆さんは、高校時代の部活動や課外活動等で、小さなチームや組織のリーダーとして、またはクラスや学校全体を巻き込むプロジェクトの一員として、様々な形でリーダーシップを発揮してきたことでしょう。そこでは目標を設定し、仲間をまとめ、時には困難に直面しながらも、共に成果を目指して、努力したのではないのでしょうか。私たちは、幅広い学問分野における**基礎的な学力**に加えて、規模を問わず、そうした**リーダーシップ経験**を持つ学生を求めています。そして、GISへの入学後は、学生一人ひとりのリーダーシップ経験を十分に活かしながら、少人数による全講義英語で行われるリベラルアーツ教育を通じて、グローバル基準の学術的知識と実践的スキルを身に付け、多様性に対する理解をより深めることで、未来のグローバルリーダーとして必要な資質を培っていただきたいと思います。

そこで、私たちは、「**高い英語力**」「**文化的知性**」「**幅広い知識教養**」「**高度な専門知識**」「**実践的スキル**」「**人間力**」を身に付けてもらうために、少人数による100%英語による世界基準のリベラルアーツ教育カリキュラムと独自の付加価値プログラムを提供しています。

100%英語による世界基準のリベラルアーツ教育カリキュラム

カリキュラムの特徴

- ・主に人文、社会科学、ビジネス分野をカバー
- ・科目を100レベル（初級）、200レベル（中級）、300レベル（上級）、400レベル（ゼミ）に分類
- ・約30の学術分野、200以上の科目を提供
- ・3、4年次のゼミ活動を通じた基礎的な学術的専門性の習得と修士課程に繋がる高度な専門性の素地を形成
- ・主に1年次における徹底した英語力強化プログラム

授業の特徴

- ・全授業英語（ディスカッション、プレゼンテーション、レポート等の課題を含む）
- ・少人数、双方向、グループワーク（チームプロジェクト）、プレゼンテーション、ディスカッション等のアクティブラーニングの実施
- ・教員と学生の出身国・地域、長期滞在先は、世界約50に及ぶ等、多様性のある環境
- ・外部講師を招いて行われることもある実践的な講義（Leadership and Career Development 等）の提供



付加価値プログラム

大学・学部内プログラム

- ・海外大学院進学サポート(GSAS)
- ・産業界等（日系グローバル企業/外資系企業/起業家等）との連携組織(GGLI)
- ・企業就職内定者による学部内キャリアフォーラム
- ・学部独自の留学プログラム(OAS)
- ・法政大学派遣/認定留学プログラム
- ・法政大学データサイエンスプログラム

外部機関連携プログラム

- ・他大学の研究者や国際機関職員によるトーク、企業とのワークショップ 等

過去の実績

- ・BMW社とのワークショップ
- ・Stanfordをはじめとする海外大学教授による講演
- ・UNICEF日本代表者による講演
- ・フルブライト派遣講師による特別授業
- ・GGLIに所属するGGLIフェローによる講義・講演
- ・東京都主催SusHi Tech Tokyo 2024 Global Startup Program アンバサダーに就任 等

学生

学生の特徴

- ・義務教育期間の海外就学者（帰国生）
- ・国内インターナショナルスクール出身者
- ・高校在学時の単身留学経験者
- ・留学未経験者
- ・留学生
- ・編入生

* 様々な国・地域で教育を受けてきた学生が混ざり合う多様性のある環境です。

教職員

教授陣

- ・博士（PhD）/専門分野で卓越した実績
- ・海外での研究・講義・勤務経験あり
- ・外国籍を持った教員率：約 55 %
- ・専任教員の専門分野（経営学、観光学、心理学、言語学、教育学、国際関係学、文学、メディア学、ジェンダー研究、情報学、哲学）

* 様々なバックグラウンド・専門分野を持つ多彩な教授陣が白熱した講義を展開します。

英語ネイティブのアカデミックアドバイザー



知識・教養 スキル等の獲得

高い英語力

文化的知性

高度な専門知識

幅広い知識教養

実践的スキル

人間力



進路

（注1）

日系グローバル企業

外資系企業

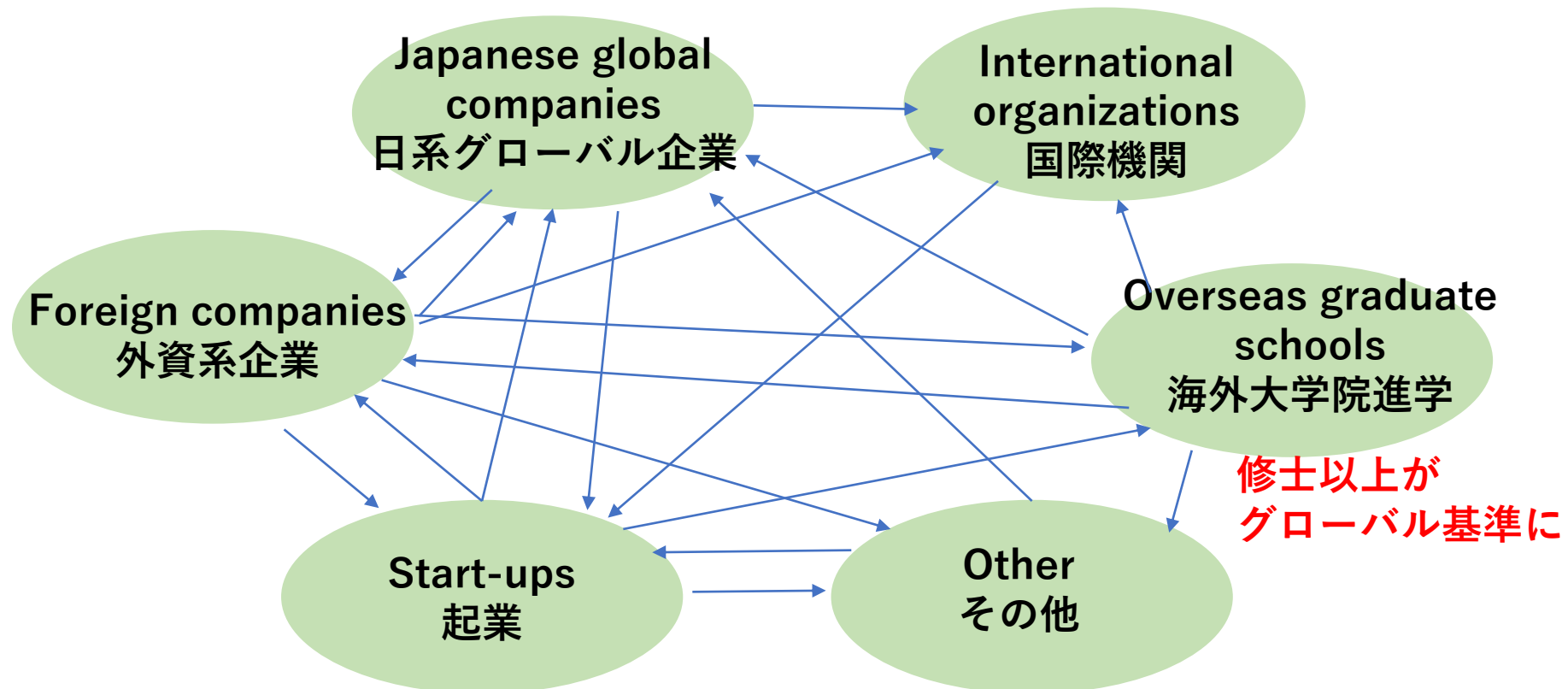
海外大学院進学

起業

その他

（注1）あくまでもファーストキャリアであり、日系グローバル企業や外資系企業での就業経験を経て海外大学院に進学する者や起業する者がいる等、卒業生のキャリア形成プロセスは様々です。

卒業後の進路



卒業後の主な進路先

日系グローバル企業・外資系企業等への就職、大学院への進学実績

Future Prospects

Utilising the skills and knowledge gained at GIS, our graduates have successfully secured employment at a range of organizations:

- Foreign-affiliated
- Japanese companies
- Others

Many GIS students have gone on to continue their studies in graduate schools, both in Japan and overseas:

- Graduate study

IRELAND

- Accenture Japan (アクセンチュア)

UK

- Ernst & Young Advisory (EY アドバイザリー)
- HSBC Securities (Japan) Limited (エイチ・エス・ビー・シーセキュリティーズジャパンリミテッド)
- PricewaterhouseCoopers (プライスウォーターハウスクーパース)
- PricewaterhouseCoopers Aarata LLC (PwC あらた有限責任監査法人)
- University of Oxford
- LSE (London School of Economics and Political Science)
- UCL (University College London)
- University of Warwick
- Lancaster University
- London Business School
- University of Bath
- University of Manchester
- University of Sheffield
- University of Sussex
- University of Bristol
- University of Leeds
- University of Essex

FRANCE

- Beacon Communications (ビーコンコミュニケーションズ株式会社)
- Institut d'études politiques de Paris (Sciences Po)

SPAIN

- University of Salamanca

NETHERLANDS

- Groningen University
- Utrecht University

SWITZERLAND

- Richemont Japan Limited (リシュモンジャパン)
- The Graduate Institute of International and Development Studies (IHEID) (ジュネーブ国際開発高等研究所)

AUSTRIA

- Red Bull Japan (レッドブル・ジャパン)

QUATAR

- Qatar Airways (カタール航空)

UAE

- Emirates Airline (エミレーツ航空会社)

HONG KONG

- University of Hong Kong

SINGAPORE

- Singapore Airlines (シンガポール航空)

AUSTRALIA

- Monash University
- University of Sydney

SOUTH KOREA

- Seoul National University

JAPAN

- Ajinomoto AGF, Inc. (味の素AGF株式会社)
- ANA Group (ANA グループ)
- Hakuho (博報堂)
- Honda Motor Co., Ltd. (本田技研工業株式会社)
- JAL Group (JALグループ)
- Japan Ministry of Defense (防衛省)
- JGC (日揮)
- JTB Group (JTB グループ)
- JX Nippon Oil & Gas Exploration (JX 石油開発)
- KDDI
- Kyodo News (共同通信社)
- Marubeni Corporation (丸紅)
- Mitsubishi UFJ Morgan Stanley Securities (三菱UFJ モルガン・スタンレー証券)
- Mizuho Financial Group (みずほフィナンシャルグループ)
- MUFG Bank (株式会社三菱UFJ銀行)
- NHK (日本放送協会)
- Nihon Unisys (日本ユニシス)
- Nippon Shokubai (日本触媒)
- Nippon Steel Corporation (新日鐵住金)
- Nissan Motor Co., Ltd. (日産自動車株式会社)
- Nomura Securities (野村證券)
- NTT Communications (NTTコミュニケーションズ株式会社)
- NTT DATA (NTT データ)
- Rakuten (楽天)
- Sapporo Breweries (サッポロビール)
- Shiseido (資生堂)
- SMBC Nikko Securities (SMBC 日興証券)
- Softbank Group (ソフトバンクグループ)
- Sony Corporation (ソニー株式会社)
- Tokyo Regional Taxation Bureau (東京国税局)

- TOTO

- Yamaha Motor Co., Ltd. (ヤマハ発動機株式会社)
- Kyoto University
- University of Tokyo
- CANADA
- McGill University
- USA
- Adobe Inc. (アドビ株式会社)
- Amazon Japan (アマゾンジャパン合同会社)
- Amazon Web Services Japan (アマゾンウェブサービスジャパン株式会社)
- Apple Japan (アップルジャパン合同会社)
- Bloomberg L.P. (ブルームバーグ・エル・ピー)
- Costco Wholesale Japan (コストコホールセールジャパン)
- Dell Technologies Ltd. (デル・テクノロジーズ株式会社)
- Deloitte Tohmatsu Financial Advisory LLC (デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザリー)
- Deloitte Touche Tohmatsu LLC (有限責任監査法人トーマツ)
- Federal Express Japan GK (フェデラルエクスプレスジャパン合同会社)
- Goldman Sachs Asset Management Co., LTD.
- IBM Japan, Ltd. (日本アイ・ビー・エム株式会社)
- Intel corporation (インテル株式会社)
- Johnson & Johnson (ジョンソン・エンド・ジョンソン)
- Philip Morris Japan (フィリップモリスジャパン株式会社)
- Salesforce Japan Co., Ltd. (セールスフォース・ジャパン)
- Texas Instruments Japan Limited (日本テキサス・インスツルメンツ合同会社)
- Stanford University
- University of Chicago
- Hult International Business School

GISのパンフレット、p10を参照してください。

GIS Global Leadership Initiative (GGLI)

1. 2023年4月1日に発足した産学連携組織
2. 産業界等で大活躍中のフェロー(24: as of June in 2024)で構成。
フェローはGIS生を対象として講義や講演を行ったり、ワークショップや
パネルディスカッション等に参加します。

3. フェローの勤務先*

- ・外資系企業: セールスフォース、マイクロソフト、GE、Google、IBM、オラクル、NVIDIA、アマゾン、アマゾンウェブサービス、
テキサス・インスツルメンツ、EY、デロイトトーマツ、ナショナル・オーストラリア銀行、Agorize、QVC、iROBOT 等
- ・日系グローバル企業: NTT東日本、NTTコミュニケーションズ、資生堂、味の素、カシオ計算機、トヨタ研究所、損保ジャパン、
三菱電機、日立製作所 等
- ・政府系機関: 省庁、JETRO 等
- ・その他、起業: Tring Chain、Tractable、アスエネ、SECAI MARCHE、Stroly 等

* 過去の勤務先も含みます。

フェローのリスト
(プロフィール)
はこちら →



Graduate School Admission Support (GSAS)

海外大学院進学サポート



・3年早期卒業の次は？

総合型選抜

2024年度入試より入試の定員を**増やしました** ↑

自己推薦入試

対象:4月入学者

自己推薦入試

対象:9月入学者

**2024年度入試より新しい春入学入試が開始
されました。**

★大きな変更点

- ・定員が**28名から40名に増えました。**
- ・A基準において、英語外部試験(TOEFL、IELTS、英検)の**スコア・級を問わず**(提出は必要)出願可能になりました。
- ・筆記試験がなくなりました
- ・志望理由書をパーソナルステイメントに変更しました

学校推薦型選抜(指定校選抜)

一般選抜

A方式入試

対象:4月入学者

英語外部試験 利用入試

対象:4月入学者

・国語＋選択科目＋
英語外部試験のスコ
ア提出で出願可能
(スコアに応じて、英
語の点数を175点、
185点、200点満点に
換算します)

・国語または数学＋英
語外部試験のスコ
ア提出で出願可能
(スコアに応じて、英語
の点数を130点、140
点、150点満点に換算
します)

その他

共通テスト利用入試、付属校からの入学、法政大
大学の他学部、他大学からの転編入試験があります

2024年度入学試験の結果

一般選抜

	志願者	受験者	合格者	倍率
A方式入試	217	210	56	3.8
英語外部試験利用入試	146	141	69	2.0
計	363	351	125	2.8

総合型選抜

	志願者	合格者	倍率
S基準	27	21	1.3
A基準	230	149	1.5
計	257	170	1.5

- ・書類選考で可否を決定しているため志願者＝受験者になります。
- ・2024年度の総合型選抜ではここ数年間の中でも高い意欲とポテンシャルをもつ志願者がとても多かったため、例年より多くの合格者を出しました。

自己推薦入試(総合型選抜) 定員:40名

- 新しい自己推薦入学試験が2023年から開始されました。主に基礎的な学力、英語力、リーダーとしてグローバル社会の更なる発展に貢献できる意欲と資質があるかどうかについて確認する試験です。
- 新しい自己推薦入学試験では、受験生のこれまで受けてきた教育とそこから得た経験や学力に応じて、**S基準、A基準の2つの基準**を用意しました。**基準に優劣はありません。**自身の強みを活かした基準を選んで受験して下さい。
- バックグラウンドが異なる受験生が入学後に交われば**多様性ある学修環境**が創出されます。グローバル社会で活躍するために必要な「高い英語力」「文化的知性」「幅広い知識教養」「高度な専門知識」「実践的スキル」「人間力」を身に付けるには、こうした多様性ある学修環境もまた必要不可欠であると私たちは考えています。

自己推薦入試(総合型選抜)における2つの基準 (2025年度入学試験要項は7月中旬に公開予定)

	S基準	A基準
定員	7名	33名
対象者	日本国内だけでなく日本国外の教育制度出身者で高い学力と英語力を有し、日本について理解があり、将来、海外大学院への進学や国際機関等で働くことで(日系グローバル企業や外資系企業等も選択肢)、日本と出身国及び教育を受けた国との間で架け橋になることを志す者が対象です。	高い学力を有する日本国内の学校に在籍する生徒であって、将来、日本語と英語の両言語を使って、日系グローバル企業や外資系企業等でグローバルに活躍することを志す者が対象です。英語外部試験の最低スコアを撤廃し、現在の英語力だけでなく、入学後の英語力向上の可能性(基礎学力および学修意欲)を含め評価を行います。
出願資格	出願資格:以下の(1)(2)(3)及び英語能力による出願要件である(4)を満たすこと。 (1) GISで学ぶことを強く希望する者 (2) 以下のいずれかに該当する者 ①日本の教育制度により、高等学校または中等教育学校を卒業、もしくは入学時までに卒業見込の者 ②日本の教育制度により、通常の過程による12年の学校教育を修了、もしくは入学時までに修了見込の者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者* もしくは入学時までに認められる見込の者 *日本国外の学校教育における12年の過程を修了した者や国際的な評価団体(WASC、CIS、ACSI、NEASC、Cognia)の設定を受けた学校で12年間の過程を修了した者等	(3)上記の出願資格(1)と(2)に加え、日本国外の教育制度による学校を修了、もしくは修了見込の者は次ページの(a)~(g)のいずれかの成績評価証明書・スコアを提出すること。ただしWASC / CIS / ACSI / NEASC / Cognia認定校の修了(見込)者の提出は不要。
英語能力による出願要件	(4)以下のa, b, cのいずれかを満たすこと a. TOEFL iBT 90点以上 b. IELTS (Academic Module) band 7.0以上 c. Language Aに英語を選択し、IB Diplomaを取得または取得見込み TOEFLはTest Date スコアのみを出願スコアとして活用します(My Bestスコアは不可)。	(4)これまで受験した英語民間試験の結果を提出すること(ただし、スコア・級は問わない)。英語民間試験は英検、TOEFL、IELTSのいずれかとする。
出願期間	2024年9月5日~9月11日	2024年10月8日~10月18日
提出書類	①調査書 ②Personal Statement (a.リーダーシップ経験や探究経験(いずれかまたは両方)と志望理由を英文で500words) ③推薦状 〈推薦状の項目〉 a. 推薦者の名前 b. 所属 c. 受験生との関係性 d. 受験生の学力・知的能力(5段階評価) e. 受験生の向上心(5段階評価) f. 受験生の創造力(5段階評価) g. 受験生の協調性(5段階評価) h. 受験生の情緒面での安定性(5段階評価) i. 特記事項	
オンライン面接日(対象者)	2024年10月●日	2024年12月●日
合否発表日	2024年11月1日	2024年12月10日

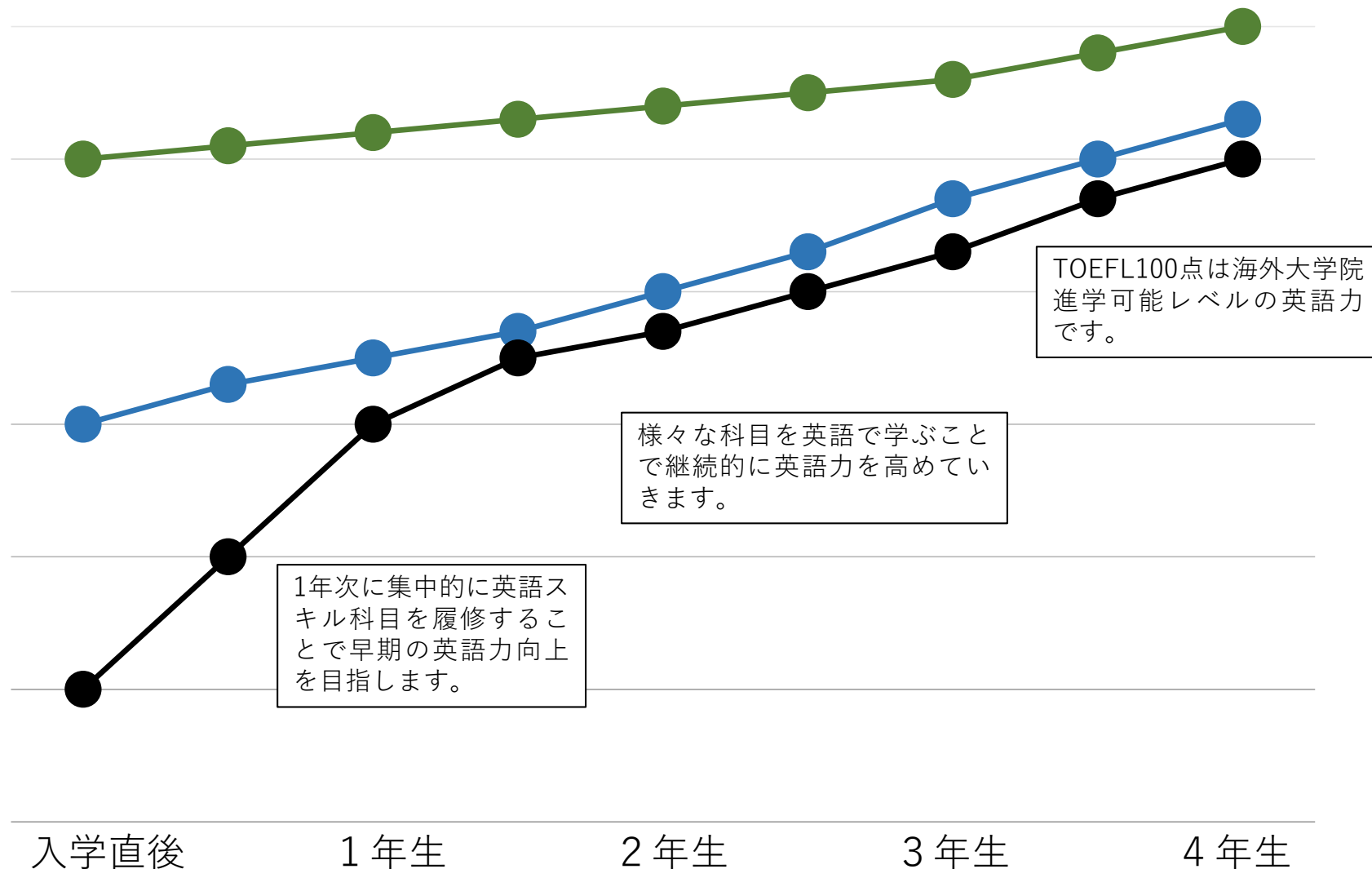
日本国外の教育制度による学校を修了もしくは修了見込の者、 S基準で出願する者が受験するために必要な出願資格と提出書類

	出願資格	提出書類
a	国際バカロレア（IB）プログラム（日本語DPを含む）を履修し、Diplomaを取得、もしくは取得見込みである。	直送の場合：Transcript of Grades 同封の場合」Transcript of Grades と Diploma 最終試験6科目 国際バカロレア（IB Diploma）取得見込みについては、本学部所定の書式を使用して下さい。
b	GCE Advanced Level 3科目、またはGCE Advanced Level 2科目とGCE Advanced Subsidiary Level 2科目の合計4科目を受講している（見込みを含む）	GCEの成績評価証明書
c	NCEA（National Certificate of Education Achievement）Level 3を含む、現地大学への入学要件（UE：University Entrance）を満たしている（見込みを含む）	NCEA Level 3を含む成績評価証明書（Record of Achievement） NCEA Level 3及びUE：University Entranceの結果が出願期間までに発表されない場合は、出身高校に成績評価見込証明書の作成を依頼して下さい（書式は任意）。
d	バカロレア（Baccalauréat）を取得している（見込みを含む）	バカロレア（Baccalauréat）の成績評価証明書
e	アビトゥア（Abitur）を取得している（見込みを含む）	アビトゥア（Abitur）の成績評価証明書
f	ACTを受験している（Writingを含む）	ACTスコア直送コード0607 * Superscoreは不可
g	SATを受験している*（SAT Essay不要）	SATスコア直送コード3686 * Superscoreは不可

*A基準に出願する国際的な評価団体（WASC、CIS、ACSI、NEASC、Cognia）の認定を受けた学校で12年間の過程を修了した者のSATスコアの提出は不要。

(参考1)

入学時点の英語力の違いによる英語力の伸び(基準別) イメージ
TOEFL iBT (120点満点)



学生の履修科目(イメージ)

	春/秋	TOEFL90以上	TOEFL80程度	TOEFL80未満
1年次	春	<u>英語力向上スキル科目(少)</u> ・ 上級アカデミック英語科目 ・ 初級レベル科目	<u>英語力向上スキル科目(中)</u> ・ 初級/中級アカデミック英語科目 ・ 初級レベル科目	<u>英語力向上スキル科目(多)</u> ・ 初級/中級アカデミック英語科目 ・ 初級レベル科目
	秋	・ 上級アカデミック英語科目 ・ 初級レベル科目	・ 中級・上級アカデミック英語科目 ・ 初級レベル科目	・ 中級・上級アカデミック英語科目 ・ 初級レベル科目
2年次	春	・ 2年次は中級レベル科目、3年次、4年次は上級レベル科目の受講・より専門性を深めるためのゼミ活動への参加 ・ GIS提供科目以外に、他学部の公開科目やグローバル教育センターが主催する留学生を対象としたESOP科目の受講 ・ 学部独自の留学制度(OAS)や大学の派遣/認定留学制度への参加 等		
	秋			
3年次	春			
	秋			
4年次	春	卒業論文の執筆・成果発表 等		
	秋			

国際系学部の特徴比較

	全科目英語				一部科目英語		
主催 と 特徴	大学	学部・学科	プログラム	学部・学科	学部・学科		
	大学主催型	学部主催型	既存学部横断型	学部コース型	国際系学部といっても学べる学問分野、英語で行われる科目の割合は学部（学科）により大きく異なる。		
	大学の全科目が英語で教授される。	単独学部の全科目が英語で教授され、幅広い専門分野を深く学ぶ。	複数学部の一部の科目が英語で教授され、それらを横断的なプログラムとし学ぶ。	単独学部内に英語を教授言語とするコースが設置され、コース内の科目を中心に学ぶ。	・日本のこと / 政治経済のこと / 異文化のこと / 英語力の向上（語学と言語学は異なる）など		
	例）A大学 ★学生はA大学の各学部にも所属	例）GIS（グローバル教養学部） ★学生はGIS（グローバル教養学部）に所属	例）経営学部、社会学部、文学部等で英語で学ぶ科目を受講 ★学生は「本籍」を各学部置き、プログラムに参加	例）経済学部英語学位コース ★学生は経済学部英語学位コースに所属	また上級科目のみ英語で提供されている場合もあるので注意が必要		
					例）国際A学部（学科） ★学生はが国際A学部（学科）に所属		
1学年定員	中～多 (200名～)	中～多 (100名～)	少 (20名前後)	少～中 (20名～)	1学年定員は学部によって異なる		
全科目に対する英語の割合	100%	100%	100%	100%	0～30%	30～40%	40～60%
必要な英語力	中～高	高	高	高	低	低	低～中
帰国生の割合	中～多	多	多	多	少	少	中

* 上記は一般的な分類であり、これらに限定されるものではありません。